

6 3 6 1 - 1 3 3
平成17年10月25日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成17年度病害虫発生予察注意報第10号について
平成17年度病害虫発生予察注意報第10号を発表したので送付します。

平成17年度病害虫発生予察注意報第10号

平成17年10月25日
宮 崎 県

病害虫名 トマト黄化葉巻病
作物名 トマト、ミニトマト、中玉トマト

- 1 発生地域 県下全域
2 発生時期 冬春トマト育苗期間及び本圃定植初期
3 発生量 多

4 注意報の根拠

- 1) 10月中旬の巡回調査におけるトマト黄化葉巻病の発生ほ場率41.6%(前年14.3%)、発病株率2.0%(前年0.4%)はいずれも前年同時期より多い。
- 2) 本病を媒介するコナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ、タバココナジラミ バイオタイプQ)の発生ほ場率50.0%(平年28.9%)、百葉当たり虫数3.3頭(平年0.6頭)とも平年より多である。
- 3) 定植前後の9月中旬から10月中旬まで高温・少雨に経過し、媒介虫の増殖にとって好適であったと考えられ、トマト以外の果菜類(キュウリ、ピーマン等)でもコナジラミ類の発生は平年並、もしくは前年と同様に多い傾向にある。
- 4) 向う1ヶ月の天候は、気温は平年並か高いと予想され(鹿児島地方気象台 10月21日発表)ており、媒介虫の活動・増殖に好適な条件は続くと考えられる。

5 防除上の注意

- 1) 生育初期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、発病株はすぐに抜き取り放置せず埋没処理を行う。
- 2) 媒介虫(コナジラミ類)の侵入を防止するため、施設開口部には必ず目合い0.4 mm以下の防虫ネットを設置する。また、作業中の人の出入りにより侵入することがあるので注意し、コナジラミ類を誘引する黄色の服の着用はできるだけ控えるようにする。
- 3) 施設内には黄色粘着板を設置し密度の低下を図るとともに、コナジラミ類の誘殺が確認された場合は、すぐに殺虫剤の散布を行い徹底的に駆除する。
- 4) 両種の肉眼での識別は困難であるが、タバココナジラミバイオタイプQについては、いくつかの薬剤の効力低下が確認されているので、薬剤散布後の効果には注意を払い、効力が劣る場合には追加の防除を行う。
また、薬剤抵抗性の発達を防止する観点から、同系統の薬剤を連用しないようにする。
- 5) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》
病害虫防除・肥料検査センター 興梠
TEL: 0985-73-6670 Fax: 0985-73-7499
E-mail: byougaichu-hiry@pref.miyazaki.lg.jp